

西中だより

平成28年度 No.28
平成29年 1月30日
須賀川市立西袋中学校
発行責任者 鶴巻 弘士

&&& 文武両道の西袋中を証明した2年生! &&&

- 昨年の11月に実施された福島県学力テスト(2学年対象)の結果が届きました。本校2年生の学力(正答率)は、市町村平均(須賀川市)、生活圏平均(県中地区)、県平均を4教科(国語、数学、理科、英語)すべてにおいて、3.1ポイント~9.1ポイント上回りました。
今回このような結果を得た理由として考えられることは、以下のことです。
 - 1、各教科の学習の仕方がそれぞれに定着してきた。
 - 2、2年生になり、中学生としての生活習慣と学習習慣が身に付いてきた。
 - 3、部活動と勉強の両立を目指して頑張る体力と気力が充実してきた。
 - 4、小学校と連携して取り入れている協同的学び(アクティブラーニング)により、覚える学習から一人一人が考えを出し合い、よりよい考えにまとめていく学習が定着してきた。
 - 5、先生方と生徒が校内陸上大会や各種大会等を通して、互いを理解し合い、信頼関係が生まれ深まった。
 - 6、各家庭においては学校の教育方針を理解いただき、できることから協力していただいた賜物である。
- このような状態を維持し、来年度の高校入試に向けて更に学力を伸ばすには、家庭と学校がこれまで以上に連携し、子どもを取り巻く環境(学習・生活)をより良くしていくことが大切です。2年生はもうすぐ最高学年に進みます。他校を意識して、様々な分野で競い合う機会が増えます。新たな試練も待ち受けています。保護者の皆様、これまで同様ご支援ご協力くださいますようお願いいたします。

\$ # マメタイムス社杯岩瀬支部冬季バレーボール大会優勝! # \$

- 1月14日(土)・15日(日)の2日間、須賀川一中体育館で、マメタイムス社杯岩瀬支部冬季バレーボール大会が開催されました。本校のバレー部は、接戦を持ち前のチームワークとねばり強いプレイで勝ち進み、見事優勝の栄誉を手に入れました。1日目の試合を応援に行きました。コート上には、ピンチになっても慌てることなく、落ち着いて自分達のプレイを行なっている西中生が居ました。これまでとの違いは、プレイにねばり強さとスピードが生まれました。最後までボールを追いかける姿を見て、子ども達の確かな成長を感じました。



<優勝トロフィー>

《校長のつぶやき》・・・「凜とした日本人の生き方」鍵山秀三郎 著 から学ぶ・・・

- この本の著者を知ったのは、数年前に地区PTA主催の講演会でのことでした。主な内容は、掃除で会社の業績を伸ばしたこと、社員が掃除の仕方を覚えると職場が活気づくこと、などでした。
- さっそく本を手にして、目を通していくと、現在の課題を解決する上で大切な考え方を学ぶことができました。そこで、いくつか引用し、紹介したいと思います。
 - ・「公」の意識は愛国心があるこそ：「人間の愛で、最大の愛は祖国愛である」これは古代ローマの思想家、キケロの言葉です。自分さえよければいいという「私」の利益しか考えない国民になったら、国家は成り立ちません。自分以外の人のために何ができるかという「公」の意識は、愛国心があるこそ育まれるものでしょう。ローマ帝国が滅びたのは、「私」の欲望を満たすことしか関心を抱けない愚民(国民)ばかりになったからです。
 - ・問題から逃げない、隠すほど問題は肥大化する：教育(学校、家庭、社会)の問題もその一例です。避けられない問題を受け入れ、本質に近づいて解決を図ることが大切です。ある日勉強会に集まった人達と街頭の清掃実習を行いました。ある時、トイレの横にある自動販売機のゴミ箱のフタを開けたら、缶以外のものも詰め込まれていたもので、中身を出して分類しました。その様子を見ていた参加者から「なぜ、わざわざそんなことをやるんですか」と質問されました。私は答えました。「ここには入れてはいけないものが入っている。これは問題です。フタのしてあるものには問題が隠れています。それが見えているから、私はフタを開け、問題を撤去しているのです。」「教育の現場はこれと同じです。目の前の問題から目を背けているから、よくなるのです。」と。フタがしてあっても中が見える人間にならなければ、よい経営者(教師・親)にはなれません。